

定。付き一般競争入札では、元請け実績に管更生工事だけでなく、開削工事もな技能士尊重の施策実施

市街地の美化に努めた



講師の宮木雅美酪農学園大教授が河畔林の成り

ミニ講座や散策などを通じて貴重な自然への理解を深めた。写真。

立ちや植生などを解説した後、実際に散策。途中でハルニレやヤチダモを観察し、ヤチダモでは葉が空気の流れを良くするよう独特の形をしている様子を確認。タヌキが子育て用に使っているくぼ地も見つけた。昼食時にはウバユリの根やエゾイラクサを試食し、オオアマドコロやチヨウセンゴシシを一晚漬けて込んで成分を溶け出させた水を煮沸して試飲。身近な自然の奥深さに理解を深めた。

同店が展開するテーマ「enjoy HOKKAI A.I.D.O. Life」

人が参加し、労使トラブルの未然防止につながる就業規則の役割など、企業リスクから会社を守るポイントを学んだ。特定社会保険労務士の吉田淳一人事労務総合研究所長が講演し、一労使間で信頼関係が築かれていないとトラブルが起きる」として、防止策として就業規則の重要性を説いた。

吉田所長は、就業規則の本来の役割について、経営理念に基づき、社員との信頼関係を築きながら自立型社員を育み、人と社会を幸せにする「いい会社づくり」を目指す土台であり共通の行動指針だと解説。

就業規則の重要性説く

労務管理セミナー



労使トラブルの未然防止策を熱心に聞いた

市通年協 務管理セミナーを開いた。市内の建設会社から事業主や人事担当者ら13

果たず先輩や管理者の役割が非常に重いことも伝えられた。

「どんなに話し上手な人、聞き上手な人でも、8割くらいは相手に伝わらないし、聞き取ることもできない」と指摘し、従業員に対し言葉を省略しないで説明すること、文書で伝えることが大事だと強調した。また、人材育成の上では、社員の試用期間中に果たす先輩や管理者の役割が非常に重いことも伝えられた。



「動」を紹介するタペストリーや、それぞれのルートを一望できる大型パネルの地図や風景各ルートの魅力を紹介している

建築と設備で計9人が休業

札幌東労基署は4月の労災発生状況をまとめ、建設業の休業災（4人以上）は前年同月比で4人減の9人で、建築6人、設備3人、土木、木造建築ゼロとなっていた。全て休業災だった。事故の刑別に見ると墜落・転落2人、転倒2人、激突・飛来・落下、巻き込まれ・挟まれ、切れ・こすれ、動作の反動・無理な動作が各1人ずつ。このうち建築の事故は19歳、経験期間1年の作業員がプレス機械で鉄板を加工する際、同僚がスイッチを入れたため手指を挟み、骨折したものを扱った。

6カ月の休業見込みとなった。1月からの累計は死亡1人を含む27人で、前年同期比8人減。ただし、前年同期は死亡はゼロを維持していた。全産業の4月労災発生状況は前年比18人減の76人で、死亡を1人含む。累計も減少傾向にあり、60人減の301人。ただし、死亡2人で、皆増となっている。被災した9人のうち、4人で法令違反の可能性があり、同署の担当者は違反率が高いことを指摘し、法令順守を呼び掛けている。設備の事故では小型チェンソーを使用したものの、必要な特別教育を受けていなかったとい

う。また、被災者が高年齢労働者と若年労働者に二極化されていることから、安全教育の徹底を求めている。

死亡労災発生のことし初の死亡労災発生

札幌中央労基署管内では、4月にことし初の死亡労働災害が発生した。土木の被災で、現場内に侵入してきた乗用車にはねられたもの。死亡を含む建設業の被災者数（休業4日以上）は、前年同月より3人少ない4人となっている。職種別では土木1人、建築1人、設備2人という内訳。事故の型別に見ると墜落・転落2人、飛来・落下1人、交通事故1人。土木の死亡事故は、上水道工事現場で路上での試掘作業中に起きたものだった。

1-4月の累計を見ると、前年同期比4人増の21人が事故に遭った。職種別では、土木が死亡1人を含む7人、建築が7人、木造建築が1人、設備が6人だった。全産業に目を移すと、3人減の65人が被災。1-4月の累計では、8人増の270人が被災し、うち死亡は1人減の1人という状況だ。同署の担当者は土木の交通事故について、道路上や隣接する箇所作業する場合は、走行車両への注意も必要と指摘。①バリケードや標識を適切に設置する②交通量などに応じて交通誘導員を配置する、監視員を配置して危険があれば速やかに退避指示する③といった対策の徹底を呼び掛けている。

4月の建設業労災

札幌中央労基署管内では、4月にことし初の死亡労働災害が発生した。土木の被災で、現場内に侵入してきた乗用車にはねられたもの。死亡を含む建設業の被災者数（休業4日以上）は、前年同月より3人少ない4人となっている。職種別では土木1人、建築1人、設備2人という内訳。事故の型別に見ると墜落・転落2人、飛来・落下1人、交通事故1人。土木の死亡事故は、上水道工事現場で路上での試掘作業中に起きたものだった。

1-4月の累計を見ると、前年同期比4人増の21人が事故に遭った。職種別では、土木が死亡1人を含む7人、建築が7人、木造建築が1人、設備が6人だった。全産業に目を移すと、3人減の65人が被災。1-4月の累計では、8人増の270人が被災し、うち死亡は1人減の1人という状況だ。同署の担当者は土木の交通事故について、道路上や隣接する箇所作業する場合は、走行車両への注意も必要と指摘。①バリケードや標識を適切に設置する②交通量などに応じて交通誘導員を配置する、監視員を配置して危険があれば速やかに退避指示する③といった対策の徹底を呼び掛けている。

199年

指定 5、千 2、8 0万円 西條 建築

大 東 法 28、2 町4工 建築 7人、木造建築が1人、設備が6人だった。全産業に目を移すと、3人減の65人が被災。1-4月の累計では、8人増の270人が被災し、うち死亡は1人減の1人という状況だ。同署の担当者は土木の交通事故について、道路上や隣接する箇所作業する場合は、走行車両への注意も必要と指摘。①バリケードや標識を適切に設置する②交通量などに応じて交通誘導員を配置する、監視員を配置して危険があれば速やかに退避指示する③といった対策の徹底を呼び掛けている。